

因果的閉包性と行為の自由：幻想としての自由意思

メタデータ	言語: jpn 出版者: 公開日: 2017-10-03 キーワード (Ja): キーワード (En): 作成者: メールアドレス: 所属:
URL	http://hdl.handle.net/2297/18472

因果的閉包性と行為の自由

幻想としての自由意思

於：玉川大学脳科学研究所 脳科学
リテラシー部門 第4回研究会

金沢大学大学院人間社会環境研究科
／人文学類・・・柴田正良

Oct. 11, '08

話の流れ

1. 因果的閉包性 (causal closure) とは何か？
2. 物理主義をめぐる幾つかの概念
スーパーヴィーニエンス・可能世界
3. リベットの実験の評価
4. 幻想としての自由



物理的世界における因果的閉包性

- いかなる物理的出来事(結果)にも、それを引き起こすのに十分な物理的出来事(原因)が存在する。
- どんな物理的出来事の原因の連鎖をどれほど遡っても、この物理的世界を飛び出すということはない。



2つの問題(1/2)

1. 自由意思による行為の過剰決定

もし行為が先立つ物理的原因(脳内の出来事)ではなく、物理的でない他の原因によって引き起こされることが、自由な行為にとって必要なら、自由な行為は、常に、それを引き起こすのに十分な2つの原因を持つことになる……**過剰決定**。
(overdetermination)

あるいは、その弱いヴァージョン。



2つの問題(2/2)

1. 非物理的現象(クオリア、現象的意識など)は、因果的閉包性の制約を受けないが、どのようにして生ずるのか？

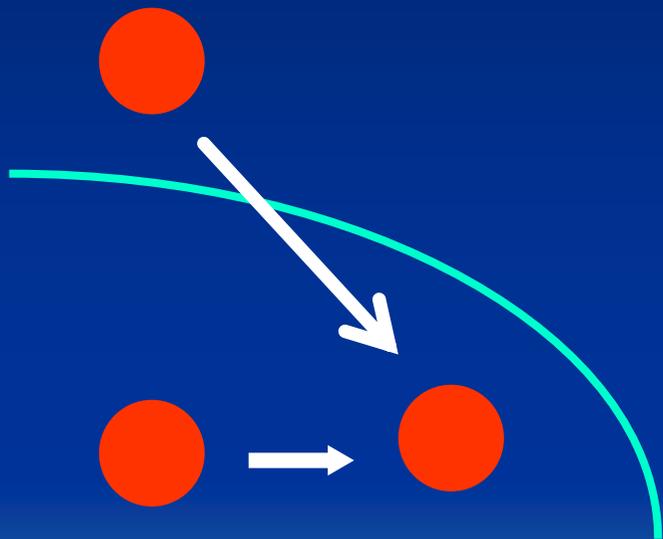
2. それらがまったくデタラメな、理解不可能な仕方で生じるのでないとしたら、物理的出来事に依存して生じる他はないだろう。

法則的ちょうちん(nomological danglers・・・ファイグル)



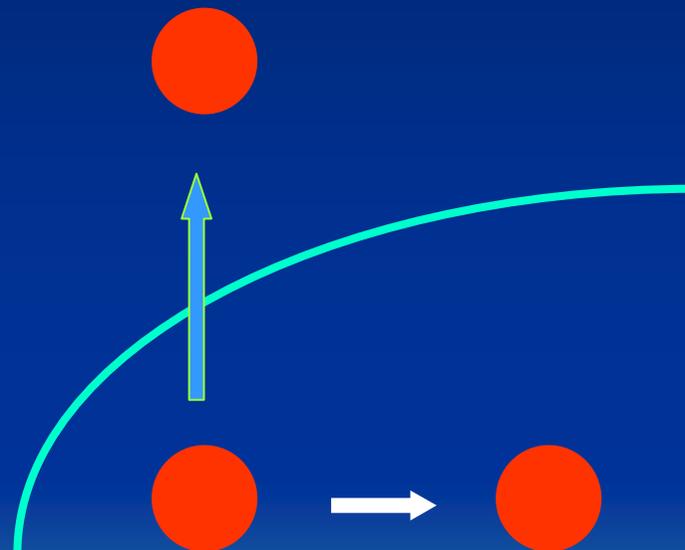
2つの事態

1/2(因果)



過剰
決定

2/2(SV)



S
V

スーパーヴィーニエンス

- スーパーヴィーニエンス(SV)とは性質間の連動関係、もしくは連動的な依存関係のことである。
- (非還元的)物理主義の主張・・・心的性質は物理的性質にSVする。
- 分子レベルでの完全な物質複製機→身体物体の完全なコピーは意識／心の完全なコピーだ(SVの主張)

性質の同一性ではなぜダメか

- **還元的物理主義**・・・すべての心的性質は物理的性質と同一。
- **<痛い> = <C繊維の興奮>** (脳細胞 in human のある物理的な性質状態)



- C繊維をもっていない生物 (**タコやミミズや宇宙人**) は、痛みももっていないことになる。というのも、 $a = b$ で $b \neq c$ ならば、 $a \neq c$ だから。

多重実現 (multiple realization)

- **機能主義**・・・心的性質は、多様な素材において実現される機能的状態だ。
- Pは、〈スペインのグラナダに行きたい〉という心的性質（／心的状態）
- Mnは、それを実現する何らかの基盤性質（／基盤状態）
- **心的状態は基盤状態の選言によって実現される。**
- **$P_x \Leftrightarrow (M1_x \vee M2_x \vee \dots \vee Mnx)$**



SVは根元的関係か？

- SV ≠ 同一性関係、SV ≠ 因果関係
→ SVは、他の関係によって説明できない世界の原初的、根元的関係である。

2つの疑問

- 本当にSVのような原初的關係はあるのか？
- あるなら、SVの成り立つ可能世界の範囲はどれくらいで、なぜそうなのか？

可能世界とは？

- 可能世界とは、現実世界と少しでも違った状況を考えたときに、われわれが呼びだしている**概念装置**である。←反事実的想定
- 可能世界の4つの特徴
整合性、完全性、飽和性、独立性

これらを満たす**可能世界は、無限に存在する**(不計算無限個)。



性質二元論的物理主義 (柴田の立場)

- ローカルな真理としての物理主義
→ あらゆる可能世界から成る論理空間の中を、次のような可能世界群が棲み分けている。

(A) 実体一元論と性質一元論が成り立つ可能世界群。例えば、それは、物理的な個体と物理的な性質のみが存在する可能世界群である。



性質二元論的物理主義(2)

- (B) 実体一元論と性質二元論が成り立つ可能世界群。それらの世界では、例えば、いかなる心的個体も物理的個体と同一だが、いかなる心的性質も自然な物理的性質と同一ではない。
- (C) 実体二元論と性質二元論が成り立つ可能世界群。これら世界では、例えば霊的実体がいかなる物理的個体とも同一ではないものとして存在し、かつ、いかなる心的性質も自然な物理的性質と同一ではない。

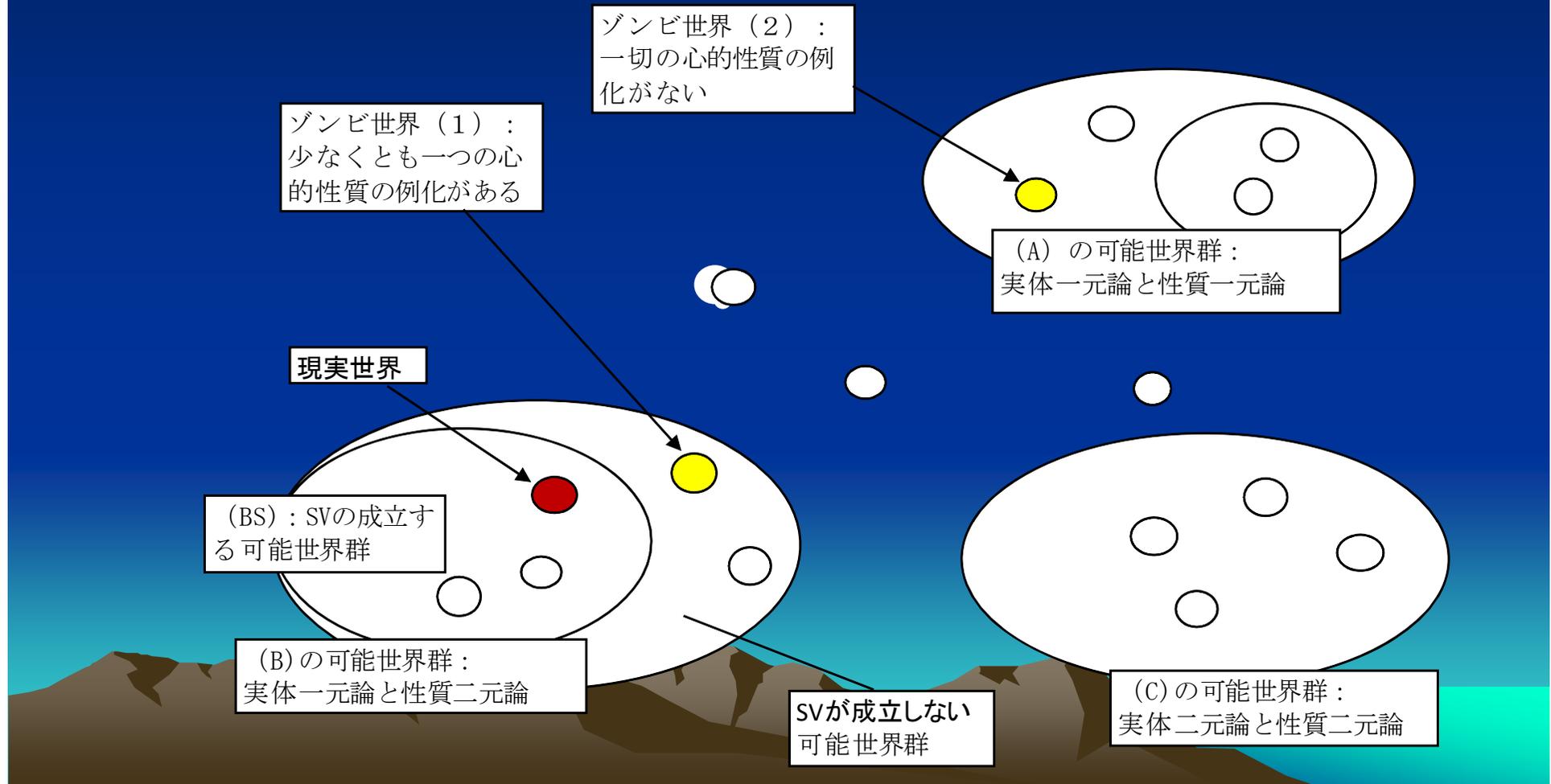


性質二元論的物理主義(3)

- (B)の可能世界群の内部には、さらに、心的性質が物理的性質にスーパーヴィーンする**可能世界群(BS)**と、そのスーパーヴィーニエンスが成り立たない可能世界群(B-BS)を区別することができる。
- 私が提案している性質二元論的物理主義→**現実世界はこの(BS)可能世界群に属する**



性質二元論的物理主義から見た現実世界の位置



リベット(B. Libet)の実験

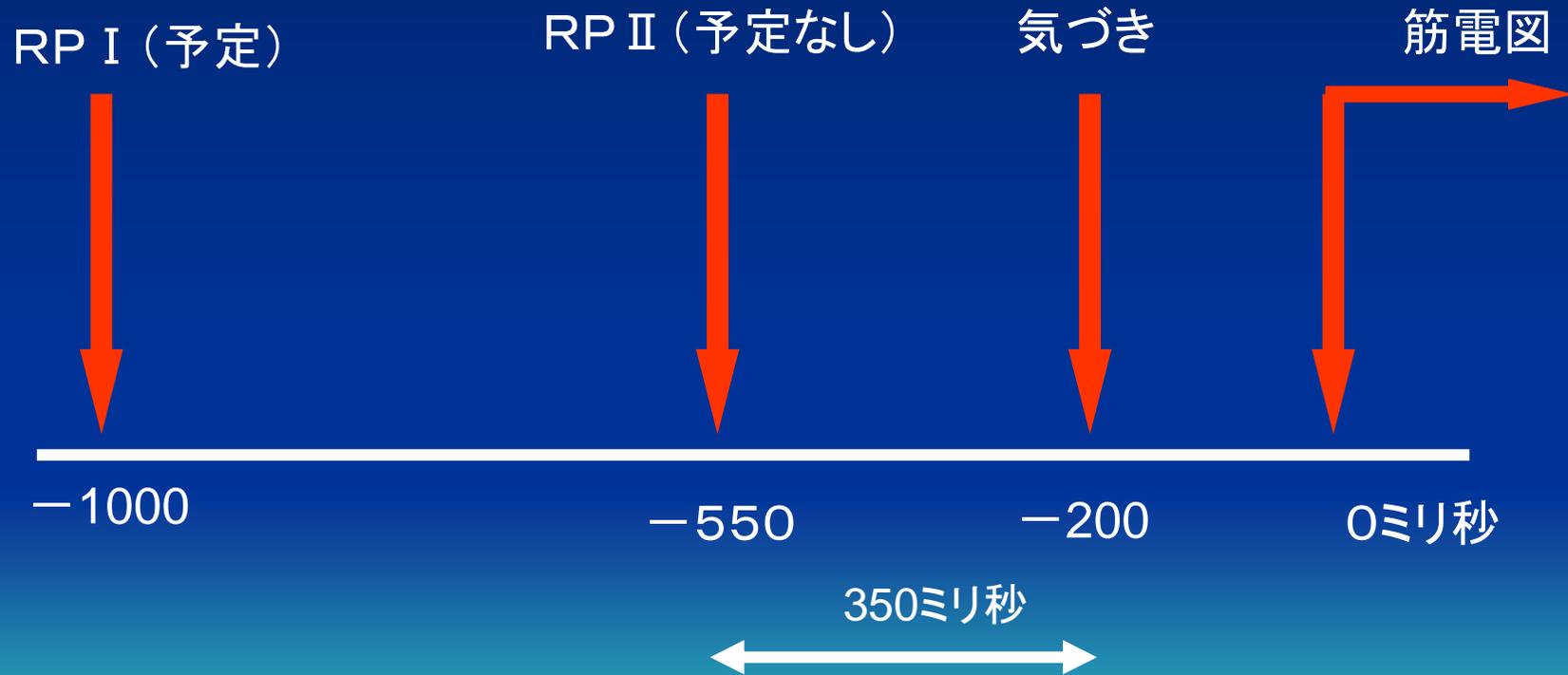
- 手首を曲げるような簡単な運動を自由に被験者にやってもらい、その時の脳における準備電位(RP)の発生と、「今、やろう」という意思に対する最初の気づき(awareness)の、それぞれの時点を比較する。



- 自分の意思に気づくより、約350ミリ秒前に脳は活動を開始している。

自発的に起動する行為：順序

『マインド・タイム』(岩波)p.160から作成



リベットの結論(1)

- 自発的な行為を結果するプロセスは、行為しようとする意識的な意思が表れるずっと前に、脳によって無意識に起動される。
- もし自由意思というものがあるとしても、自由意思が自発的行為を起動しているのではない。



リベットの結論(2)

- ・ 意識的な意思は、脳活動の開始より350ミリ秒ほど遅れるが、少なくとも行為開始の150～200ミリ秒前には現れる。このうちの最後の100ミリ秒の間に、**意思は行為を拒絶することができる。**
- ・ 自由意思は、行為の結果や実際の遂行を制御することができる。それは、行為を進行させたり、行為が起こらないように拒否することができる。

リベットの精神場理論 (CMF) Conscious Mental Field

1. CMFは、神経細胞の物理的活動と主観的経験の創発との媒介作用をする。
2. CMFは、統一した主観的経験が宿る存在者 (entity)である。
3. CMFは、幾つかのニューロンの働きを変化させたり、それに介入したりする**因果的力** (causal abilities)を持つ。



リベットの実験の解釈(1) エピフェノメナリズムの受容へ

1. 意識的意思に対応する神経相関物 (neuronal correlates)が存在しない。



存在するのは「気づき」だけ。

気づきの内容である意識的意思も、気づきとは独立には存在しない。「こうしよう」という意図すらも、そう<感ずる>ことに対応する神経相関物が存在するだけの幻想である。

リベットの実験の解釈(2) エピフェノメナリズムの受容へ

2. 意識的意思に対応する神経相関物 (neuronal correlates) は存在する。



その相関物は因果的に決定されている。
行為は、「こうしよう」という意識的意思によって引き起こされているように見えるが、それは幻想であり、その神経相関物は、先行する脳過程によって因果的に決定されている。

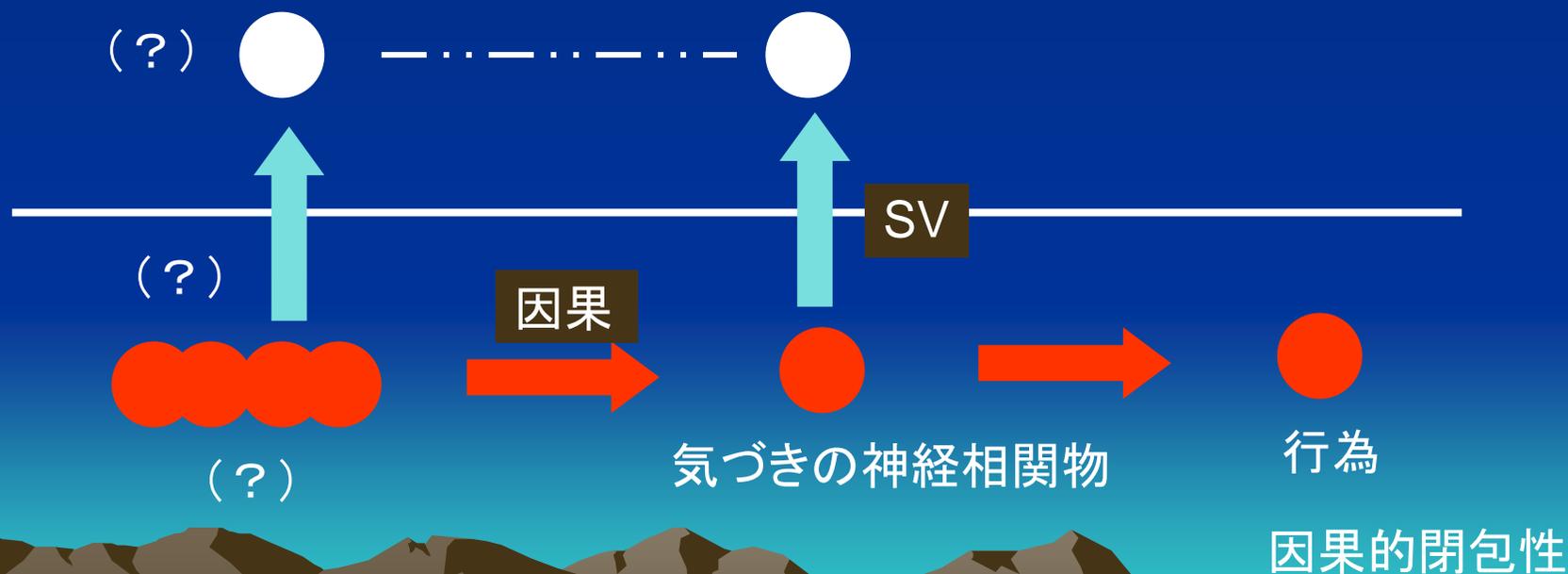
(因果的閉包性+スーパーヴィーニエンス)

→ エピフェノメナリズム

リベットの実験の解釈(1~2)

意思(気づきの内容)

気づき



結論に代えて(リベットの評価)

1. リベットの<拒否の意思>ですらも、因果的閉包性とSVから逃れられない。それは、やはり、**エピフェノメナリズム**である。

2. CMFの運命

CMFが物理的因果に還元できない力を心に確保しようとする限り、因果的閉包性とSVの下では、望みなき企てである。



結論に代えて(なすべきこと)

1. 物理主義の下で〈自由〉の概念を新たに造り直すこと、その上で、**新たな責任と行為主体の倫理学**を作ること。
2. 人間のような有限な行為者はなぜ、**〈他のようにもなしえた〉**という自由の概念、つまり**〈自由の幻想〉**を持たねばならないのか。それを、脳神経学的に説明すること。仮想的な**〈自由の劇場〉**。

おまけ(自由に基づかない責任)

1. 行為は自由でなくとも責任を問いうる。その場合、脳の異常や障害による行為といわゆる普通の行為は、連続的である。

心神喪失・心神耗弱 → 因果的責任

2. 責任を行為の合理性によって決定するのは限界がある。← 合理性は自然化できないし、行為の合理性には程度がある

おまけ(何を倫理的責任とするか)

1. 因果的責任は、すべての行為に対して、多かれ少なかれ問いうる。

法的責任は、因果的責任を基礎に・・・？

2. 何が倫理的に<悪>であり<善>であるかは、自然化できない。倫理は物理的世界にSVしない。 → どのような倫理・道徳も、われわれは幻想の制度として選ぶうる。